


指導資料 特別支援教育 第202号

 鹿兒島県総合教育センター
令和元年10月発行

対象
校種

特別支援学校

これでできる！特別支援学校の教育課程の編成 ～カリキュラム・マネジメントに基づいた組織的な取組を通して～

学習指導要領改訂に伴い、教育課程の編成はカリキュラム・マネジメントの視点から行っていくことが重要である。そこで、特別支援学校における教育課程の編成の在り方について、カリキュラム・マネジメントに基づいた組織的な実践例を通して提案する。

1 はじめに

- ・ 教育課程を編成する時間が取れない。
- ・ 教育課程編成を学校全体で組織的に行うことが難しい。
- ・ 小学部から高等部にわたって、系統性のある年間指導計画を作成することが難しい。
- ・ 基本的な考え方や指導内容が、大事な観点を押さえているものなのかが分からない。
- ・ 年間指導計画の書式が学部や教科によってバラバラで統一されていない。



教育課程係

特別支援学校の教育課程の編成は、以前から難しいと言われており、各学校の教育課程係は、毎年編成作業をどのように進めたらよいか苦慮している。

そこで、学習指導要領改訂に伴う、カリキュラム・マネジメントの視点に基いた特別支援学校における教育課程の編成の在り方について提案する。

教育課程編成の具体的な編成方法については、次ページで実践例に基づいて紹介するが、この方法で教育課程を編成すれば、以下の点において有効であると考える。



- ・ 編成作業の年間のスケジュールの見通しがもてる。
- ・ 小学部から高等部までの全教職員が組織的に編成作業に取り組める。
- ・ 基本的な考え方や指導内容で押さえるべきポイントを理解することができる。
- ・ 年間指導計画の書式を各学部や教科で統一することができる。
- ・ カリキュラム・マネジメントのノウハウを身に付けることができる。

3 カリキュラム・マネジメントの必要性

教育課程は、あらゆる教育活動を支える基盤となるものであり、学校運営についても、教育課程に基づく教育活動をより効果的に実施していく観点からなされなければならない。

カリキュラム・マネジメントとは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことである。学習指導要領では、次の三つの側面で整理し示している。

- | | |
|---|--|
| ① | 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと |
| ② | 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと |
| ③ | 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに、その改善を図っていくこと |

特別支援学校においては、人間として調和のとれた児童生徒の育成を目指し、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに地域や学校の実態を十分考慮して編成、実施した教育課程が学校教育目標を効果的に実現する働きをするように、改善を図ることが求められる。

こうしたことから、学校は教育課程を絶えず改善するという基本的態度をもつことが必要である。

表1は、国立特別支援教育総合研究所が作成した「カリキュラム・マネジメント促進フレームワーク」の一部である。これは、カリキュラム・マネジメントを促進する八つの要因を導き出したものである。

このフレームワークは、自校の学校経営上の特徴や成果と課題について、教育課程の全体構造を俯瞰した上で分析する視点として活用できる。その際、Ⅰ～Ⅷの八つの要因が「何のために、いつ、どこで、誰が、誰と、

何を、どのように、どうするか」を表していると理解して取り組むとよい。

なお、前ページ2の実践例は、特別支援学校の教育課程編成においてカリキュラム・マネジメントを促進させることができるモデルでもある。

表1 カリキュラム・マネジメント促進フレームワークの一部

要 因	要因の具体的な工夫
I.ビジョン（コンセプト）作り	どのような目的の下、どのような意図や方針をもって取組や検討等を行うかを明確にする工夫
II.スケジュール作り	「いつ」の時期に取組や検討等を行うかを明確にする工夫
III.場作り	「どこで」に関わる取組や検討等を行う場を明確にする工夫
IV.体制（組織）作り	「誰が」に関わる取組や、検討等を行う参加者や参加組織を明確にする工夫
V.関係作り	「人と人」、「組織と組織」、「項目と項目」等の関係の在り方に関する工夫
VI.コンテンツ作り	結果として作り出される内容物等に関する工夫
VII.ルール作り	「どのように」関わるかについての取組や検討等、ルール作りに関する工夫
VIII.プログラム作り	より具体的な取組や検討等の事項に関する工夫

4 おわりに

今後、特別支援教育の視点を生かしたカリキュラム・マネジメントを中軸に、地域の実情等を踏まえた特色ある学校づくりを進めていくことが大切である。

先述した実践例を参考に、各特別支援学校で組織的な取組を積み重ね、毎年行う必要がある教育課程の編成に努めてほしい。

－引用・参考文献－

- 特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部） 文部科学省 2018年
- 国立特別支援教育総合研究所 知的障害教育研究班 平成27～28年度基幹研究サマリー 2017年

（特別支援教育研修課 阿久根 剛）

※ 見やすいフォントを使用しています。

2 実践例（特別支援学校における教育課程の編成方法）

後述するフレームワークに基づいた教育課程の編成について、本県のA特別支援学校の実践例を紹介する。

手順1 ビジョン（コンセプト作り）

年度当初、校長や各学部主事が学校・学部経営方針について提示し、共通理解を図る。5月には、教育課程係が全体研修の中でカリキュラム・マネジメントに基づいた教育課程の重要性について全職員に周知する。

手順2 スケジュール作り

編成作業を定期的に全職員で行っていく機会を設定する。具体的には毎月1回の学部の時間を活用する(①)。

手順3 場作り及び体制作り

編成作業グループについては、小・中・高からそれぞれ1人以上は各教科等に所属するグループで編成する(②)。
職員数が少ない場合、教科によっては職員が重複して編成作業を行う必要がある。そこで、編成作業の1単位時間を25分と設定し、1回の編成作業で2教科に参加できるように効率化を図る。例えば、16:00から16:25の前半と、16:25から16:50の後半に分けて編成作業を行うようにする。

手順4 関係作り及びルール作り

下記のような編成作業の手順を、教育課程係から提示する。
ア 評価の資料を収集し、検討する。
イ 整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかにする。
ウ 改善案を作成し、実施する（実施については、次年度以降行う。）
編成作業を実施するに当たっては、各教科等における評価の資料が必要となる。そこで、各教科等の各単元・題材のチームは、年間指導計画（目標、学習内容、手立て、準備、留意点等）の中に変更点や評価を朱書きし、各教科等の世話係に提出する。編成作業では、それを基に、次年度の各単元・各題材の年間指導計画について検討する。
なお、編成作業で検討した内容については、記録を取り、各教科等の教育課程係に提出する(③)。

提出された編成作業記録表の中で、全体に検討すべき内容があった場合は、教育課程検討委員会の時間を使って検討する。

さらに、第10回の編成作業後、各教科等の世話係は各教科等の教育課程係に次年度の年間指導計画を提出する。その後、教育課程係が編成作業シート(④)に基づいて各教科等の年間指導計画の加除・修正を行い、管理職に提出する。

手順5 コンテンツ作り

年間指導計画の書式についても、単元・題材一覧表は小・中・高で系統性が分かるように、全学部を一つの表の中に収めるようにする(⑤)。また、新しい年間指導計画の書式で作成した例を示すことで、より具体的にまとめやすくする(⑥)。

手順6 プログラム作り

教育課程編成に関する評価活動として、各教科等で今年度の成果についてまとめる。また、年度末には、編成作業のまとめとして次年度の指導計画を各教科等で作成する。A校では、定期的に話し合いを重ね、系統性のある教育課程を作れたという意見が多く聞かれた(⑦)。

手順2 ① 編成作業の年間スケジュール

回	月	主な編成作業内容
1	5月	各学部の基本的な考え方、単元や題材配列、指導目標の確認と検討 実施された単元や題材の反省を基に、段階化された指導目標の設定（年間を通して実施）
2	6月	各学部の基本的な考え方、単元や題材配列、指導目標の確認と検討
3	7月	各学部の基本的な考え方、単元や題材配列、指導目標の確認と検討
第1回担当者会（各教科等の世話係と教育課程係） ※ 1学期の編成作業の反省と今後の作業について確認する。		
4	8月	各学部の基本的な考え方、単元や題材配列、指導目標の確認と検討
5	9月	指導上の留意点、授業時数についての確認と検討
6	10月	指導上の留意点、授業時数についての確認と検討
7	11月	指導上の留意点、授業時数についての確認と検討
8	12月	指導上の留意点、授業時数についての確認と検討
第2回担当者会（各教科等の世話係と教育課程係） ※ 2学期の編成作業の反省と今後の作業について確認する。		
9	1月	まとめ作業（年間の編成作業の評価と、次年度の取組について）
10	2月	まとめ作業（年間の編成作業の評価と、次年度の取組について）
第3回担当者会（各教科等の世話係と教育課程係） ※ 年間の編成作業の評価と来年度の取組についての報告をする。		

手順3 ② 編成作業のグループ表

領域・教科名	小担当	中担当	高担当	教育課程係
国語	K	N	○ S	T
算数・数学	W	A	○ T	N
図工・美術	Y	O	○ D	S
体育・保健 体育	H	H	○ O	T
音楽	H	○ H	F	T
特別活動	S	○ S	S	A
自立活動	○ M	M	K	S
日常生活の 指導	○ O	M	N	N
生活単元 学習	○ T	K	F	N

※ ○印は各教科等の世話係

手順4 ③ 編成作業記録表

領域・教科等名【生活単元学習】	
編成作業グループ担当者（T, K, F） 教育課程係（N）	
☆ 6月5日の編成作業について	
編成作業の内容	各学部の基本的な考え方、単元・題材配列、指導目標の確認及び検討 評価に関する情報の収集 今後、C課程とD課程の教育課程は分けて編成していく。
決まったこと	「基本的な考え方」に学習指導要領の趣旨や児童生徒の実態及び各学部での学習内容を記入し、次回の作業までに作成する。 評価を行う際は、各単元・題材のチームに学習内容の変更点をまとめ年間指導計画に朱書きしてもらうようにする。 各単元の目標について、児童生徒の実態に応じた段階別の目標を設定していく。
検討すべき課題	「系統性」をどのように考えていくか。例えば、「校外学習」の単元を例にして、各学部で目標や学習内容を検討し、共通理解していく必要がある。 また、校外学習については、学校近隣の施設の実地踏査を行うとともに、身に付けさせたい力はどのようなものか検討する必要がある。
次回の編成作業の内容	各学部の「基本的な考え方」の案を全員で検討する。 実施した単元のC、D課程それぞれの目標を検討する。 一学期の編成作業を振り返る。
その他（教育課程係への要望など）	年間指導計画の統一化された書式を提示してほしい。

手順4 ④ 編成作業チェックシート

	観点	評価	
基本的な考え方	① 学習指導要領の趣旨（基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲の向上、豊かな心や健やかな体の育成など）が盛り込まれているか。	○	
	② 児童生徒の実態に即しているか。	○	
	③ 学校や地域の実態に即しているか。	○	
	④ これまでの実践を通じた課題が整理され盛り込まれているか。	○	
	⑤ 自立や社会参加に必要な内容が整備されているか。	○	
	⑥ 小・中・高の一貫性、系統性の視点で整備されているか。	○	
	指導内容	① 基本的な考え方に基づいているか。	○
		② 児童生徒にとって有効な単元・題材か。	○
		③ 指導目標は段階化され、児童生徒の実態に合っているか。	○
		④ 児童生徒にとって魅力的な学習活動か。	○
		⑤ 単元・題材を配列する根拠は十分か。	○
		⑥ 教材・教具は充実しているか。	○
		⑦ 授業時数は妥当か。	△
		⑧ これまでの実践を通じた課題が整理され盛り込まれているか。	○
⑨ 生活年齢に応じているか。	○		
⑩ 自立と社会参加に必要な内容が準備されているか。	○		
⑪ 行事や他教科等との関連性があるか。	△		
⑫ 各学部の教育目標との整合性があるか。	○		
⑬ 小・中・高の一貫性、系統性の視点で整備されているか。	○		
⑭ 地域の実情を踏まえ、資源を生かした特色ある指導内容を取り入れているか。	○		

手順5 ⑤ 単元・題材一覧表の例

単元・題材一覧表（生活単元学習）						
月	小学部		中学部		高等部	
	単元名	時数	単元名	時数	単元名	時数
4	友達になろう	5.0	新しい学級	11.2	新しい学年・学級歓迎会	2.6
5	がんばるぞ運動会	15.0	運動会	11.2	運動会実習準備	4.8
6	夏の遊び	20.0	職場見学 職場体験学習	11.2	現場実習	8.4
7	もうすぐ夏休み	15.0	実習がんばった会	10.4	一学期を振り返って	5.8
9	二学期がはじまったよ	10.0	宿泊学習（1年） 校外学習（2・3年）	16.0	修学旅行（3年）	8.0

手順5 ⑥ 年間指導計画の例

単元名	かずをかぞえよう	期間	4～5月	時数	14
段階目標	1: 身近にある具体物を数えることができる。	学習内容	学習活動	14	
	2: 初歩的な数の概念を理解し、簡単な計算ができる。				
	3: 日常生活に必要な数量の処理や計算をすることができる。				
	4: 日常生活に必要な数量の処理や計算をすることができる。				
1	数を数えたり、計算したりする。	お皿にケーキの模型をのせ、お皿とケーキの模型のどちらが多いか答える。			
(1)	一対一対応で数の同じ、多少が分かり、多い方（少ない方）を指す。【1段階】	1から10までの数字カードを見て、順番に数字を読んでいく。数字カードを小さい数から順番に並べる。			
(2)	1から10までの数を数えたり、順番に並べたりする。【2段階】	1から10までの数字カードを見て、順番に数字を読んでいく。数字カードを小さい数から順番に並べる。			
(3)	1から10までの数を使って、足し算や引き算をする。【2段階】	タイルを使って「2+3」や「4-1」などの計算をする。			
(4)	計算機を使って、簡単な計算をする。【3段階】	2つの品物の値段を計算機を使って足し、合計額を出す。			
指導上の留意点					
学習の理解と定着を図るために、1段階の学習では具体物を用いながら活動を行う。					
2段階の学習では、1から5までの数概念の定着を図ってから、6以上の数を扱っていく。					
準備物					
お皿 ・ ケーキの模型 ・ 数字カード タイル ・ 計算機 など					

手順6 ⑦ 編成作業の成果・課題

領域・教科等名（体育・保健体育）	世話係（○○）
今年度の成果	次年度以降の課題
小・中・高の基本的な考え方や授業内容について検討することができ、教育課程編成に生かされた。	今年度作成した年間指導計画が次年度入学してくる児童生徒の実態に合っているかどうかは、次年度授業を行いながら検証していく必要がある。
体力面に関しては、児童生徒の実態に応じて目標が大きく変わるとも考えられる。そこで、個人目標は段階化された目標を活用し柔軟に設定していくことを共通理解することができた。	中学部・高等部においては、保健で取り扱う授業内容に系統性がないものがある。次年度は全体計画の見直しも行っていきたい。